

成人式華やかに

新成人の門出を祝う「成人式」が1月10日、文化センター大ホールで行われ、華やかな振袖や羽織袴、スーツに身を包んだ新成人535人(対象者744人)が出席し、人生の新たな一歩を踏み出しました。



晴れ着姿で会場に集まる新成人市長に向かって誓いの言葉を述べる吉村さん(中)と山本さん(右) 松花堂庭園を訪れた新成人



昨年に続き、新型コロナウイルス対策のため、参加者を中学校区ごとなどで午前と午後の二部に分けて実施。式典では、堀口市長と岡田議長がお祝いの言葉を贈り、新成人からは一部では吉村樹さんと山本穂果さん、二部では紺野愛美さんと飯田音音さんが代表して誓いの言葉を披露。吉村さんと山本さんは、コロナ禍の状況を憂いながらも、「この状況を経験し耐え抜いたことは、これから先、生きていくうえで大きな力になると感じています。これからも学び、経験し、立派な大人の一人として努力し、成長していきたいと思えます」と決意を述べられました。またこの日、松花堂庭園では新成人が無料で招待され、園内での記念撮影を楽しんでいました。

1月14日、竹で組んだやぐらに正月飾りや書き初めなどを掛けて焼く伝統行事「とんど」が南ヶ丘保育園で行われ、0〜5歳児61人が健康な一年などを願いました。

健康な一年神様をお願い 南ヶ丘保育園で「とんど」

「火の神様」と大きな声で呼ぶと、職員扮する火の神様が登場。手に持ったたいまつでやぐらに火をつけました。やぐらは勢いよく燃え上がり、竹が弾けるたびに「ポーン、ポーン」と大きな音が。園児たちはその様子を見つめながら、みんなで手を合わせ、「野菜が食べられるようになりましょー」など、思い思いの願い事をしていました。



やぐらに火をつける火の神様

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



提言を聞く堀口市長(右)と小橋教育長(左)

竹ストローで市PRを

子ども会議 小学生班が市長に提言

市内の小・中学生、高校生30人が委員となって市をより良くする方法を考える「八幡市子ども会議」が1月15日に行われ、委員がとりまとめたアイデアを堀口市長に提言しました。

同会議は、立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携し、平成16年から毎年実施。例年は委員が市長に対面で提言していますが、今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、自宅から参加するオンライン形式で実施しました。

持続可能な開発目標(SD

Gs)をテーマに、提言に向けて調査などを行ってきた委員。生産と消費に着目した小学生班は、八幡産の竹を使った再利用可能なストローの開発を提案。包装には竹をイメージしたキャラクターをデザインするなど工夫し、八幡の竹の有効活用とPRを提言しました。

ほかにも、さくら近隣公園の全長88kmのうんていを利用したイベント、健康づくりのためのミュージックビデオの制作など、子どもたちならではの提言が発表されました。

今月のこの人 新成人 両親への感謝胸に歩む



若杉 駿さん
成人式の実行委員。男山中学校出身。大学2年生。

「コロナ禍で時間がいつもより早く経つように感じて、20歳になった実感がまだ湧いてないんです。けど、『選挙や政治にも触れていかないと』という気持ちはあります」と成人としての自覚をのぞかせる若杉さん。

中学時代は生徒会に所属し、さまざまな活動に参加。中でも愛媛県八幡浜市(飛行神社を創建した二宮忠八の出生地)での中学生交流が一番思い出に残っていて、

「フェリーからイルカの群れが見えてすごかった」と当時を楽しそうに振り返ります。

現在は大学の理工学部で学び、将来は情報系の会社に就職したいと話す若杉さん。ただ、子どものころからゲームが好きで、「自分が作ったゲームが世に出たら楽しいかも」と夢も膨らませます。

両親に対しては、「20年間、迷惑しかかけていないので、いつか

親孝行をしたいです。新婚旅行をしていないと言っていたので、旅行をプレゼントできたらいいですね」とニコリ。そんな両親への感謝の思いを胸に、八幡市出身の新成人としてこれからの人生を歩んでいきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。